

十和田の火山活動解説資料（令和7年3月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

GNSS 連続観測では、2023 年前半から十和田湖を挟む東西の基線でわずかな変化が認められていますが、その他の火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1）

銀山監視カメラによる観測では、噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図2、図3）

30 日に火山性地震が一時的に増加し、日回数は 18 回となりました。震源は中湖（なかのうみ）付近の深さ約 6 km と推定されます。最大の地震は 21 時 00 分頃に発生し、マグニチュード※は 2.7 でした。その他の期間は少ない状態で経過しました。より浅い場所を震源とする火山性地震、低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

※ マグニチュードは地震の規模を示します。今期間の値は暫定値で、後日変更することがあります。

・ 地殻変動の状況（図4、図6）

GNSS 連続観測では、十和田周辺の東西の基線において、2023 年前半から大川岱観測点の西方向への変位と十和田湖2（国）観測点の東方向への変位によるとみられるわずかな変化が認められています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和7年4月分）は令和7年5月12日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

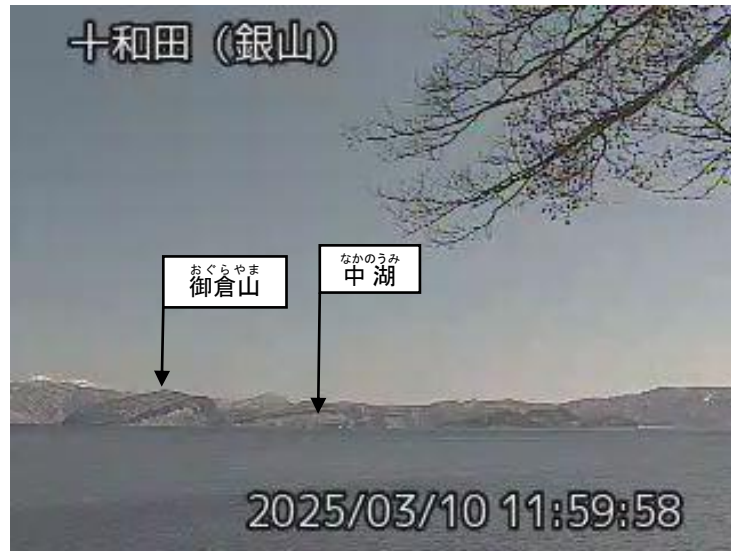


図 1 十和田 中湖周辺の状況（3月10日）
 ・ 銀山監視カメラ（中湖の北西約 6 km）の映像です。
 噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

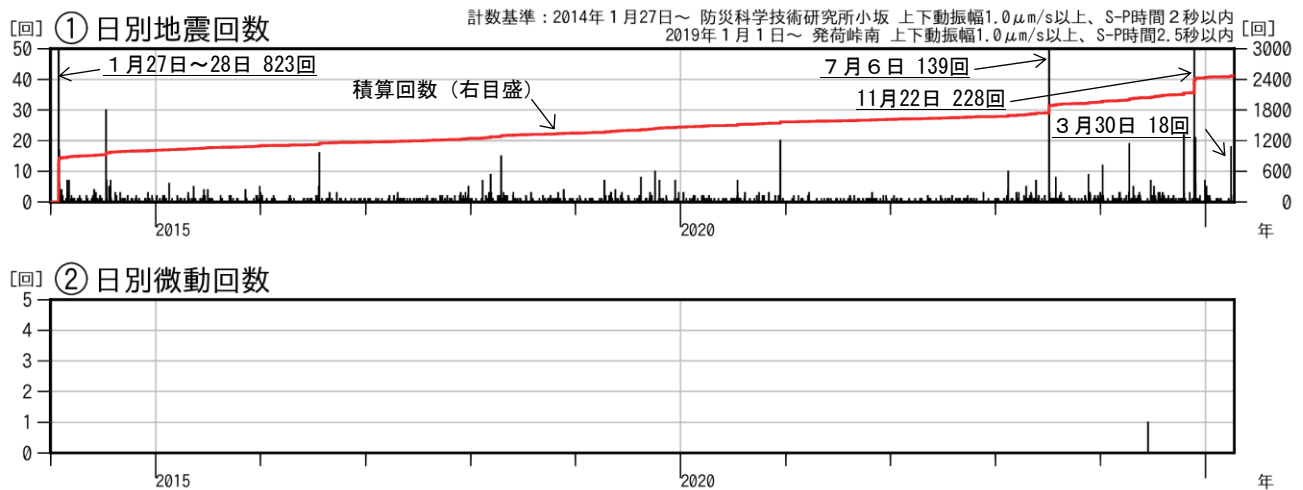


図 2 十和田 活動経過図（2014 年 1 月～2025 年 3 月）

30 日に火山性地震が一時的に増加し、日回数は 18 回になりました。低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

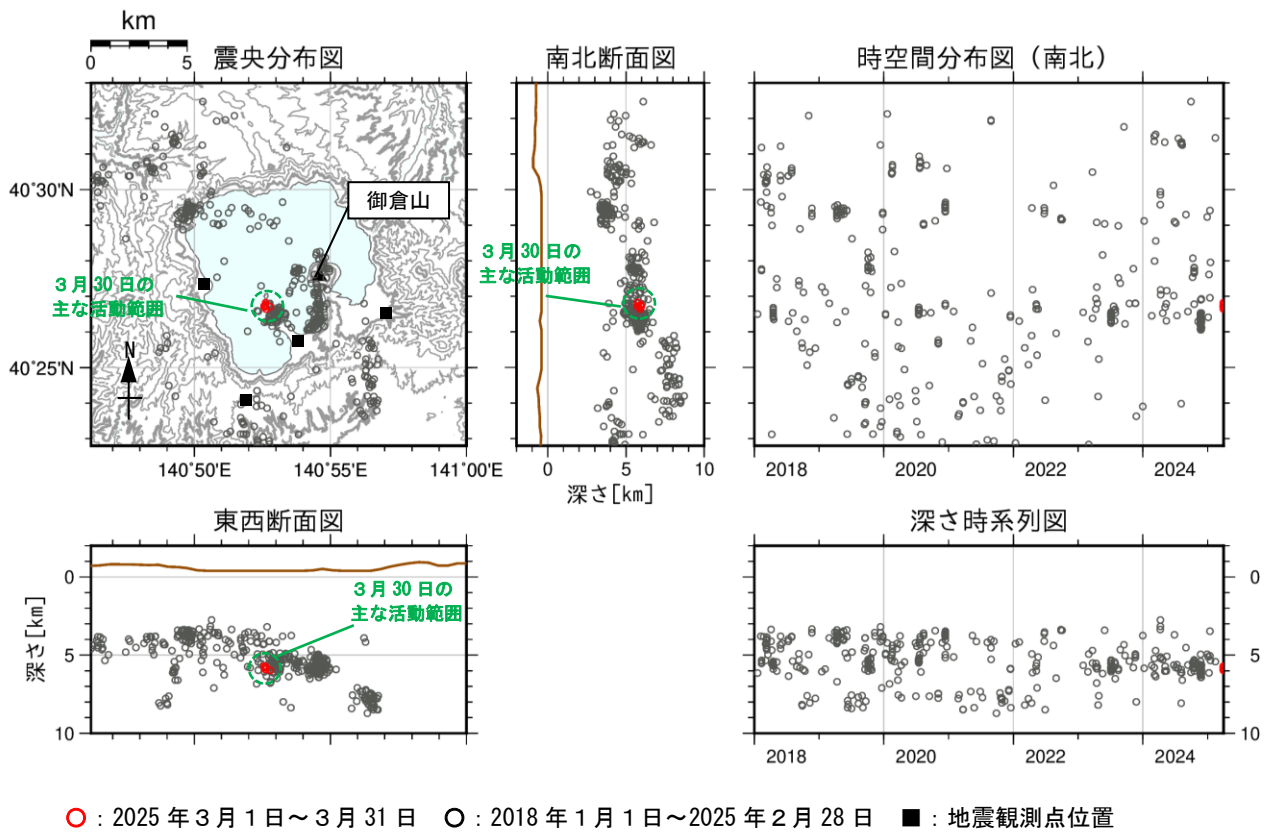


図3 十和田 地震活動（2018 年 1 月～2025 年 3 月）

30 日に発生した火山性地震の震源は中湖付近、深さは約 6 km と推定されます。十和田では、これまでも深さ約 5 km 前後での地震が発生しています。より浅い場所を震源とする火山性地震は観測されませんでした。

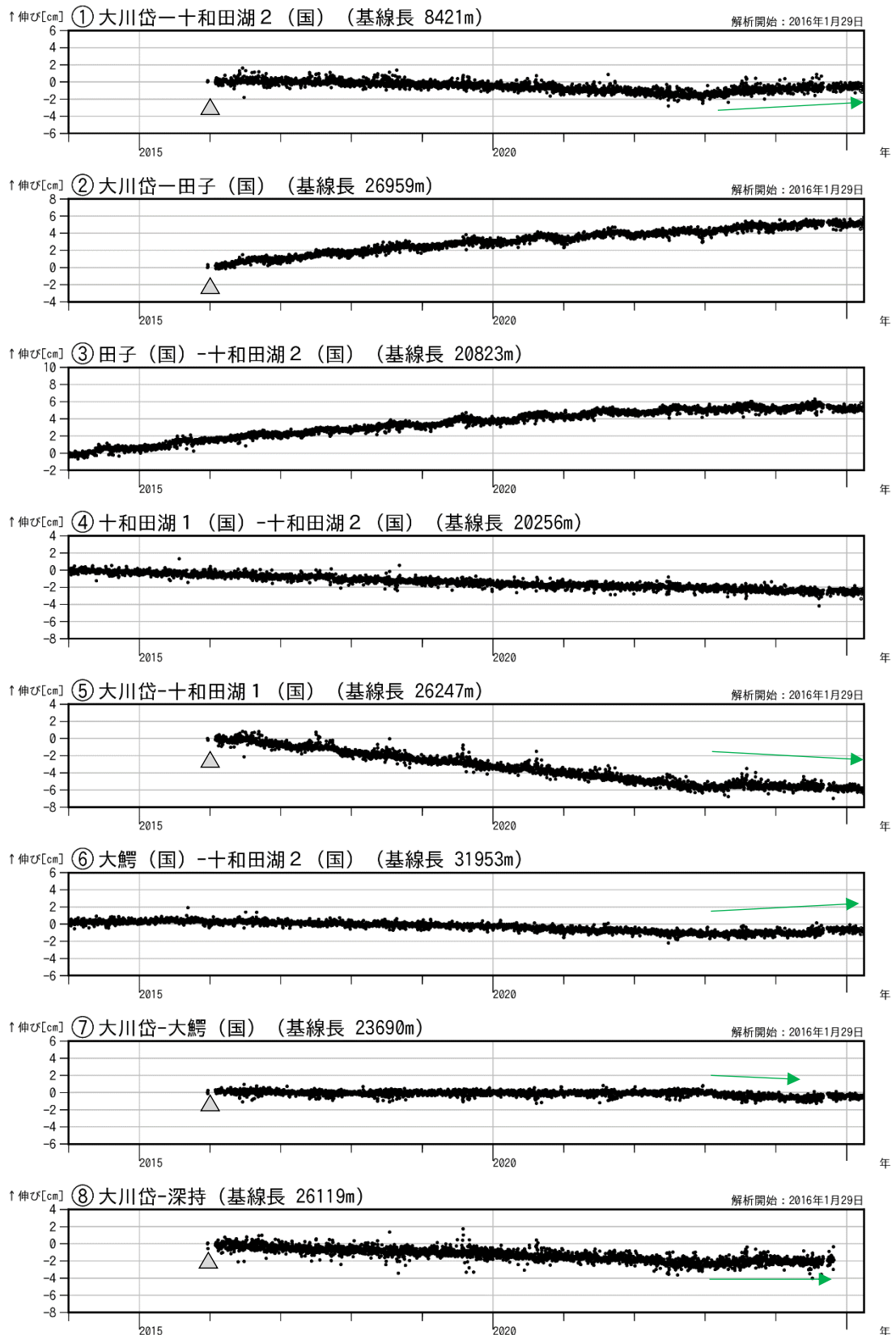


図4 十和田 GNSS 基線長変化図（2014年1月～2025年3月）

- ・①～⑧は図6のGNSS基線①～⑧に対応しています。・空白部分は欠測を示します。
- ・（国）は国土地理院の観測点を示します。
- ▲：解析開始を示します。

2023年前半から大川岱観測点の西方向への変位と十和田湖2（国）観測点の東方向への変位によるとみられるわずかな変化が認められています（緑矢印）。

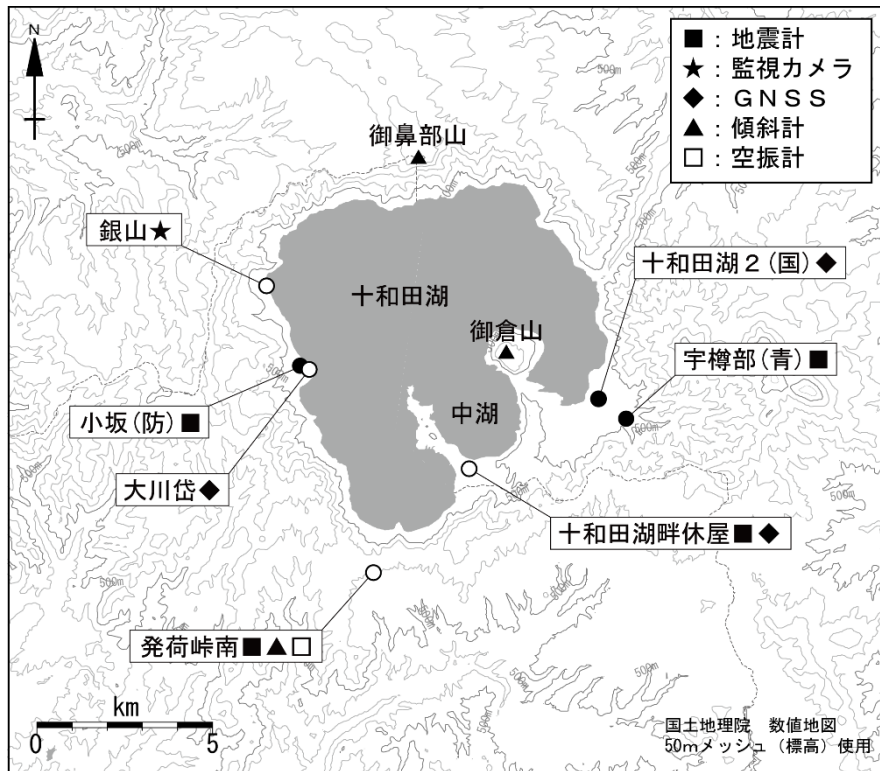


図5 十和田 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院 （防）：防災科学技術研究所 （青）：青森県

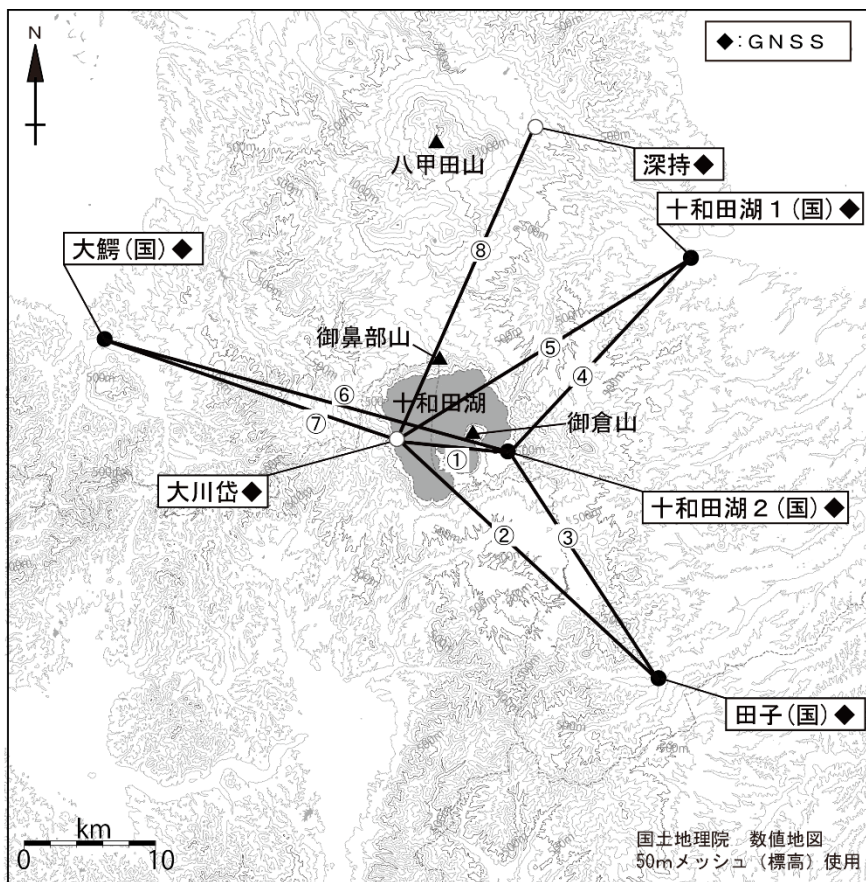


図6 十和田 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院